

第5回

広島大学大学院医歯薬学総合研究科発表会（医学）

（平成17年5月6日）

—学位論文抄録—

1. Reduced activation of posterior cingulate cortex during imagery in subjects with high degrees of alexithymia: a functional magnetic resonance imaging study

（高アレキシサイミア者におけるイメージ（心像）生成中の後帯状回低活性）

萬谷 智之

創生医科学専攻先進医療開発科学講座（精神神経医科学）

アレキシサイミア（ALX）と関連するイメージ（心像）生成課題遂行時の脳活動を functional MRI を用い

て検討した。本研究は倫理委員会による審査後、対象者から文書による同意を得て行われた。対象は20項目トロントアレキシサイミア尺度で56点以上の高ALX者10例および年齢・性別・利き手をマッチングさせた44点以下の低ALX者10例である。高ALX者は低ALX者よりも過去・未来の悲しいイメージ生成時の自覚的なイメージの鮮明さと感情の強さが有意に弱かった。また脳活動測定では、高ALX者は低ALX者よりも後帯状回において基底条件に比較した過去・未来の楽しいイメージ生成時の活動および未来の中性のイメージ生成時に比較した未来の楽しいイメージ生成時の活動が有意に低かった。今回の結果から、高ALX者のイメージ生成機能低下に後帯状回の活動性低下が関与していることが明らかになった。